



ありがとう かみすげた

上菅田小学校 学校教育目標
心かがやく上菅田の子ども

か	上菅田の「まち」を知り、地域とともに活動しよう	(公)
み	みんなも自分も大切にし、社会に貢献しよう	(徳)
す	すてきな日本を学び、世界で活躍できる人になろう	(開)
げ	元気な心と健康な体を作ろう	(体)
た	楽しく学び、のびのびと表現しよう	(知)

平成 31 年 4 月 26 日
横浜市立上菅田小学校
学校だより 5 月号




子供の自尊感情を育むために

子供たちの共有体験を学校・家庭・地域と協働で！

校 長 縣 利一

「輝け 感謝 上菅田」これは、4月24日の代表委員会において話し合い、決定された令和元年度上菅田小学校の児童会テーマです。提案理由には、上菅田小学校として最後の年であり全児童の目標となる活動テーマを決めたいという趣旨が書かれていました。

テーマに込めた思いは、次のようになっています。（第一回代表委員会の原案より）

輝け…最後の一年、一人ひとりが全力で輝き、上菅田小学校で最高の思い出が作れるように。

感謝…今までお世話になった上菅田小学校に感謝の気持ちを伝えるため。

4年生以上の学級代表の子供たちが、各クラスで話し合われた意見を発表しながら、原案に込められた思いを共通理解するように話し合いが進められました。低学年の意見は、担任の先生から発表してもらい、代表委員会の決定に反映するようにしています。つまり、全校児童の思いがテーマに込められるように話し合いを行ったわけです。話し合いを通して様々な意見や考えを伝えあいながら合意形成に向かって考えをまとめ、上菅田小学校の最後の年に全校児童が共通の目標に向かって活動して行くための児童会テーマを決定することができました。今後はこのテーマのもと、児童会活動が展開されていきます。教職員はもとより、保護者や地域の皆様からのご支援をいただきながら、子供たちにとって最高の思い出となる共有体験活動にしていきたいと思えます。

さて、先日「自尊感情が育つ学校づくり」というタイトルの講演に参加する機会がありました。「自尊感情」とは「自分には価値があり尊敬されるべき人間であると思える感情」のことで「自分を大切に思う気持ち」という意味でよく使われます。学習行動においては、「自尊感情が高い人は困難に出会っても粘り強く努力するが、自尊感情が低い人はすぐにあきらめてしまう傾向がある。」とされ、対人関係においては、「自尊感情の高い人は、他人からの賞賛や批判にさほど左右されず感情が安定しているが、自尊感情の低い人は、ほめられるとその相手が良い人に思え、けなされると悪い人に見えるようなところがあり、感情的にも不安定な傾向がある。」とされます。したがって、子育てには自尊感情を高くする関わりが大切であると言われます。

自尊感情を高めるために、「褒める」「認める」「成功体験を積みせる」などの関わりが大切と言われ、大人達は他者との比較や社会の価値観で子供を評価することがあります。それらで高まる自尊感情は、条件付き自尊感情といって、例えば成績が伸びたり試合に勝ったりすると自尊感情は高まり、その逆だと低くなるという事になります。いわゆる状況依存的な自尊感情と言われています。したがって、他者との比較によって育まれた自尊感情は、優越感や自己中心性などを生み、わがままな人間になる可能性があります。さらには、他者との比較が下方比較（劣位の他者と比べること）となり、相対的優位性を保とうとするあまり、いわゆるいじめという構造につながりかねないとも言えます。また、褒められ認められるという外からの評価や期待に対して応え続けなければならないという子供の精神的な負担感燃え尽き症候群のような無気力感を生み出しかねないのです。

一方、ありのままの自分を受け入れてもらえることで高まる自尊感情は、自分自身を信じ自律的・自発的に行動し、その結果を受け入れてより良い自分になっていこうとする感情です。「生まれてきてありがとう」「今のあなたが素晴らしい」等と、ありのままを受け入れられた子供は、家庭、学校、地域での共有の感動体験を重ねることによって自分に自信をもってポジティブに生きる自尊感情が育まれるそうです。日本の文化的な背景が反映しているそうですが、今持っている力で社会の役に立っていこうとする生き方そのものが健全な自尊感情を基とした安定した地域・社会形成に繋がっていくということだと思います。まずは学校教育において、子供の個性をしっかりと受け止め、共有体験を積み重ねる学習を通して健全な自尊感情を育みたいと考えます。

入学おめでとうの会

4月11日（木）の1校時に、＜入学おめでとうの会＞を行いました。お兄さん、お姉さんに迎えられて、1年生も上菅田小学校の仲間入りをしました。歌やゲームなど1年生を迎えるいろいろな取組を行い、1年生もとても楽しそうでした。



6年生のお兄さん、お姉さんと入退場しました。



2年生からプレゼントをいただきました。



全校のみんなで、ゲームを楽しみました。

こうして上菅田小学校の大切な仲間になった1年生。給食も始まり、元気に学校生活を送っています。たくさん学んで、たくさん遊んで、学校生活を思い切り楽しんでほしいと思います。

特別支援教育コーディネーター

河野佑介、成瀬亮、大下寛規、川口紀明、高木雅世、小浜仁嗣、笠井千沙が担当です。

横浜市では、発達障害など、個別に教育支援を要するお子さんに対し、教育的ニーズを明らかにし、それに応じる「特別支援教育」を推進しています。本校でも、校内特別支援教育委員会を設け、担任や保護者、関係機関との連携を図りながら研修を重ね、一人ひとりに対応できる教育を目指した取組を進めています。そして、校内の推進役、保護者の皆様の窓口として特別支援コーディネーターをおいています。今後の取組にご理解とご協力をお願いいたします。

＜特別支援教育コーディネーターの役割＞

- 校内委員会の推進役となり、校内および関係機関との連携調整・窓口となります。
- 保護者に対する相談窓口となります。
- 担任への具体的な支援を行います。
- スクールカウンセラーとの連携を図っていきます。

セクシャル・ハラスメント相談窓口

横浜市では「職場におけるセクシュアル・ハラスメント防止に関する指針」に基づいて、各学校においてもわいせつ行為やセクシュアル・ハラスメント防止のために、校内相談窓口を設置して不祥事防止に努力しています。

本校の相談窓口担当者は、**朝川健太郎副校長**と**笠井千沙養護教諭**です。また、教育総合相談センターの一般教育相談も、セクシュアル・ハラスメント相談窓口として利用できます。

教育総合相談センター TEL 671-3726